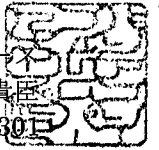




2017年2月1日

一般社団法人 小郡三井医師会
会長様

バリアフリー・フィルム・パートナーズ
代表・映画監督 緒方 貴啓
東京都中野区鷺宮 3-17-6 要ビル 301
電話 03-6869-3373 / FAX 03-6869-3361
E-mail info@barrierfree-film.org



日本医師会・福岡県医師会 後援

「心のバリアフリーとリハビリテーションを広める映画」ご支援のお願い

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

病気や怪我などにより障がいを持った方々が活躍できる場面は、社会の中でとても限られているのが実情です。求職する障がい者が職につけるのは 48.2%に過ぎません(平成27年度厚労省調べ)。また、がん等の病気を経験した人においても、差別や偏見、配慮が得られないなどの理由から希望する仕事を諦めるケースが多くあります。根本的な解決に必要なのは、私たち一人一人の互いを知り、尊重し、助け合う「心」であると考えます。

そこで、映画を通して「心のバリアフリー」を広めるため、障がい者やがん経験者、骨髄移植経験者を含む多様なメンバーが集まり、私どもバリアフリー・フィルム・パートナーズが発足しました。設立には 2015 年公開の骨髄バンク普及映画『迷宮カフェ』の監督やスタッフも参加し、前作の経験を活かして取り組んでいます。

本作では、障がい者の社会参画を推進するため、リハビリによって社会復帰してゆく姿を映画で描き、リハビリテーション医療の重要性をわかりやすく伝えます。この取り組みに対して、日本医師会長・横倉義武先生よりご推薦文をいただいたほか、日本医師会、福岡県医師会、日本リハビリテーション医学会等、多くの団体のご賛同と後援を得ております。詳しくは、同封の冊子・資料をご高覧ください。

つきましては、当映画が素晴らしい作品となり、誰もが生き生きと輝くことができる真のバリアフリー社会を実現するために、下記の通り賛助会費によるご支援をお願い申し上げます。なお、映画の製作費は 8,000 万円を目標としています。

障がい者が多数出演し、人気俳優とともに活躍する姿を全国へ発信する予定の当映画に、どうかご協力を賜りますよう、会員一同心よりお願い申し上げます。 敬具

記

・賛助会費 1口 3万円 あたたかいご支援をお願い申し上げます

※映画のエンドロール(終幕)に、貴会ご名称を表示いたします。

※当会ホームページ (barrierfree-film.org) のご支援者様欄に、貴会ご名称を表示いたします。

※ご指定の名目で領収書を発行いたします (※通常「広告費」は経費として算入が可能です)。

※当会へのご賛助は一回限りのご支援で、毎定期的なご支援のお願いではございません。

※当会に当映画による収益があった場合、障がい者支援団体に全額を寄付いたします。



日本医師会

会長 横倉 義武 様

わが国における障がい者施策は進んだとは言え、駅などの公共施設を見ても、欧米諸国に比べれば依然として遅れている状況にあります。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、さらに整備が進んでくるとは思われますが、その際にはハード面だけでなく、ソフト面、つまり、心のバリアフリーを進めていくことが不可欠です。そういった意味においても、本事業は大変意義あることであると考えています。

また、本作品はリハビリテーション医療の重要性を伝える内容になると聞いています。早期にリハビリに取り組むことは、われわれが目指す健康寿命の延伸にもつながることであり、映画の完成を楽しみにしております。



衆議院議員

野田 聖子 様

平成26年1月、日本は国連の「障がい者の権利に関する条約」に批准しました。これにより、障がい者の人権や基本的自由の享有を確保し、障がい者の権利を実現するための措置が義務化されます。

現在の日本でも新しく建てられる建物は、ほとんどが障がい者や高齢者の方々にも利用しやすいユニバーサルデザインが採用され、バリアフリー化が進んでおります。

そもそも「バリアフリー」という言葉は、障がい者など身体に不自由のあるの方々にとって物理的に障害（バリア）になるものを取り除く（フリーにする）という意味がはじまりです。そして現在では、物理的な障壁のみならず、資格・免許取得など制度的な障壁や文化・情報の取得する権利の確保、そして差別など意識上の心の壁などこれらすべての障壁をなくすことを指しています。

それでは、日本でこれらのバリアフリーがどこまで進んでいるかを考えたとき、もっとも理解が進んでいないのが「心のバリアフリー」ではないでしょうか。

この映画はそのような心の壁を内側から取り除くことを目的として制作しております。心のバリアフリーが進めば、障がい者の方々が普通に働き表現できる社会がきっと実現できます。

政治家として、障がいを持つ息子を抱える一人の母親として、この映画を通じ障がい者が輝けるポジティブな世界になることを期待してやみません。

みなさまにもご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

(当会に資金をご提供くださった皆様・2017年1月時点・抜粋)

東京都	千代田区医師会 様／三鷹市医師会 様／小石川医師会 様 高須クリニック 高須克弥記念財団 様 / コスモ・バイオ株式会社 様 アクティククリニック 様 / 細胞治療技術研究所 様 / 増村メンタルクリニック 様 金子整形外科内科 様 / 尾山台心療クリニック 様 イオンリテール(株)北関東・新潟カンパニー 様 / 三輝健康社 サンキ薬局 様
北海道	札幌市医師会 様／函館市医師会 様／室蘭市医師会 様／空知南部医師会 様 旭豊会 旭川三愛病院 様 / 新さっぽろ脳神経外科病院 様 / てらにし調剤薬局 様 小川原湖クリニック 様／緑の森薬局 様
青森県	医療法人社団 池田内科医院 様／そばた脳神経クリニック 様
岩手県	気仙沼市医師会 様
宮城県	久盛会 秋田緑ヶ丘病院 様
秋田県	寒河江市西村山郡医師会 様 / 白壁内科クリニック様 / 飯島医院 様
山形県	いわき市医師会 様 / 福島県立医科大学附属病院 小児腫瘍内科 様
福島県	うめやま医院 様
群馬県	竜ヶ崎市牛久市医師会 様 / 博仁会 志村大宮病院 様 / きぬのまち診療所 様
茨城県	野田市医師会 様／沖繩徳洲会 千葉徳洲会病院 様 / みらいウィメンズクリニック 様
千葉県	川口市医師会 様 / 入間地区医師会 様 / 埼玉県立がんセンター 様
埼玉県	横須賀市医師会 様 / 新横浜リハビリテーション病院 様
神奈川県	かわぐち皮フ科 様／ちどりこどもクリニック 様／竹田こどもクリニック 様 ゆが原整形クリニック 様 / 山本内科クリニック 様
新潟県	たけうち小児クリニック 様 / 庄司こども医院 様 / ささがわ小児科クリニック 様 すどう小児クリニック 様 / 新潟県緩和ケア推進協議会 様 / (株)新潟博報堂 様 TeNY テレビ新潟 様 / UX新潟テレビ21 様 / 新潟フジカラー 様 ケンユウグループ 様 / キリンビール新潟支社 様 / (株)BSNアイネット 様
山梨県	花の丘たちかわクリニック 様
岐阜県	塚田レディースクリニック 様
静岡県	アイ・レディースクリニック 様
愛知県	光生会 光生会病院 様 / 五条川リハビリテーション病院 様 成精会 刈谷病院 様 / ごきそレディースクリニック 様 / 名古屋アイクリニック 様
三重県	せきクリニック 様
京都府	京都府南丹市八木町きむら診療所 様 / 西大丸診療所 様
大阪府	とくだクリニック 様 / 村上小児科クリニック 様 / アピス児童デイサービス 様
兵庫県	医心堂丹家内科クリニック 様 / 金高医院 様
鳥根県	小林クリニック 様
岡山県	こどもクリニック青い鳥 様
広島県	うすい皮フ科クリニック 様 / 大手町こぶけ内科クリニック 様 すずらん薬局 様 / ひかり薬局 様
香川県	松浦こどもメンタルクリニック 様
福岡県	久留米大学病院 様／雪の聖母会 聖マリア病院 様／フォレストホールディングス 様
熊本県	九州記念病院 様／熊本県玉名市浦田医院 様／仁寿会 中村医院様／仙寿会 緒方医院 様
長崎県	安永産婦人科医院 様
鹿児島県	恩賜財団 済生会 川内病院 様 / 隆成会隆成会病院 様 / 昭山会 佐藤医院 様
沖縄県	医療法人貴和の会 様 / 待望主会 安立医院 様 / 安心会 愛聖クリニック 様 産婦人科ゆいクリニック 様 / すこやか薬局グループ 様

ほか、多数の皆様

あたたかいご支援をありがとうございます

- 後 援：
- 公益社団法人 日本医師会
 - 公益社団法人 日本リハビリテーション医学会
 - 公益社団法人 日本看護協会
 - 公益社団法人 日本理学療法士協会
 - 公益社団法人 全日本病院協会
 - 一般社団法人 日本病院会
 - 一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会
 - NPO 法人 日本リハビリテーション看護学会
 - 一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会
 - 一般社団法人 障がい者自立推進機構パラリンアート
 - 一般社団法人 北海道医師会
 - 公益社団法人 青森県医師会
 - 一般社団法人 岩手県医師会
 - 公益社団法人 宮城県医師会
 - 一般社団法人 秋田県医師会
 - 一般社団法人 山形県医師会
 - 一般社団法人 福島県医師会
 - 一般社団法人 茨城県医師会
 - 一般社団法人 栃木県医師会
 - 公益社団法人 群馬県医師会
 - 一般社団法人 埼玉県医師会
 - 公益社団法人 千葉県医師会
 - 公益社団法人 東京都医師会
 - 公益社団法人 神奈川県医師会
 - 公益社団法人 富山県医師会
 - 公益社団法人 石川県医師会
 - 一般社団法人 福井県医師会
 - 一般社団法人 山梨県医師会
 - 一般社団法人 岐阜県医師会
 - 一般社団法人 静岡県医師会
 - 公益社団法人 三重県医師会
 - 一般社団法人 滋賀県医師会
 - 一般社団法人 大阪府医師会
 - 一般社団法人 兵庫県医師会
 - 一般社団法人 奈良県医師会
 - 一般社団法人 和歌山県医師会
 - 公益社団法人 鳥取県医師会
 - 一般社団法人 島根県医師会
 - 公益社団法人 岡山県医師会
 - 一般社団法人 広島県医師会
 - 一般社団法人 山口県医師会
 - 一般社団法人 徳島県医師会
 - 一般社団法人 愛媛県医師会
 - 一般社団法人 高知県医師会
 - 公益社団法人 福岡県医師会
 - 一般社団法人 佐賀県医師会
 - 一般社団法人 長崎県医師会
 - 公益社団法人 熊本県医師会
 - 一般社団法人 大分県医師会
 - 公益社団法人 宮崎県医師会
 - 公益社団法人 鹿児島県医師会
 - 一般社団法人 沖縄県医師会

ほか

バリアフリー・フィルム・パートナーズ
 代表・緒方貴臣
 監督作 映画『子宮に沈める』
 ※オレンジリボン運動推薦映画
 出典：読売新聞 全国版 (2013.11.5 号)

撮影・三浦邦彦



児童虐待をテーマにした映画を制作した

顔

緒方 貴臣さん 32

妹は16歳で結婚し、19歳で実家に戻ってきた。結婚後に離婚し、不安定な仕事に甘んじながら、引越した。この母親も妹も、育児と会社を経営する身には、アルバイトしながら子育てする妹が甘く見えた。夜泣きにも気がつかずに疲れて眠る妹を、ふすま越しに「世話しろよ」と叱ったことも。母親は育児を最優先すべきだと、妥協を嫌って厳しい目を向けていた。

「映画監督になりたい」という夢を捨てられず、福岡市から上京して2009年に監督としてデビュー。翌年、大阪市のマンションに放火された姉弟が亡くなる事件が起きた。

た姉弟が亡くなる事件が起きた。孤立した母親の内面を描いた映画は、9日から東京・新宿で公開される。「母親だけに育児を頑張らせようとする社会が、母親を追い詰めている」と、監督の暗がりな社会派監督の鋭い目が光った。

（生活部 吉田尚大）



バリアフリー・フィルム・パートナーズ

副代表・帆根川 廣

監督作 映画『迷宮カフェ』

※日本医師会後援・

骨髄バンク普及映画

出典：読売新聞 全国版

(2015.2.25 号)

骨髄提供啓発プラス楽しさ

隠れたカフェに集まった駅ありの店主や客たちを描く『迷宮カフェ』が3月7日、公開される。監督は帆根川廣。川にとつて2000年のエンブティ・フル」以来、2作品となる。

訪れた客が次々失踪するという噂を聞き、雑誌記者が山奥のカフェを訪れる。そこでは店主のマリコ（関めぐみ）が自殺志願者を募り、簡単に死ねるカプセルと引き換えに、骨髄を提供するまで自殺を勧めようとしていた。肉体的衰えを嘆くボディビルダー（角田信朗）、失恋の痛手を引きずる女性（市川由衣）ら志願者とかかわるマリコも、深い闇を抱えている。

『迷宮カフェ』監督 帆根川廣



まずは作品として楽しめ、見終わった後に骨髄提供の大切さが分かる。観客の心を動かす力が、映画にはあると思う」と語る。

サスペンス調の出だし、さらに謎解きのミカルな要素も入れ、最後まで観客を引っ張るような心がけた。登場人物たちは、心にそれぞれ悩みを抱え、抜け出せない迷宮の中にいる。「かなりの極端なキャラクターばかりだが、共感できる人物もいると思う。その人と一緒に、観客も迷宮をさまよっていったら」

自殺と骨髄移植、「生きる」ことに対して相反する行為が同時に示される。「本当に死にたくてカフェに来た人はいない。誰かに助けてほしい、仲間がほしいという気持ちだったはず」。ラストには人間味があふれている。「命を大切にしてほしい。生きていてほしい」と、監督のメッセージを伝えている。



映画

FAX お申込書

バリアフリー・フィルム・パートナーズの活動を賛助します。 年 月 日

ふりがな

ご 名 称 (※領収書の宛名)

担当部署

ふりがな

担当者様お名前

ご 住 所 (〒 -)

電 話

FAX

E-mail

ご支援の額 ☐ (※1 □ 3 万円にて、何□でもお申し受けいたします)

映画のエンドロール(終幕)と当会ホームページにご名称を表示

☐ する 表示するご名称➡

※20 字以内でご記入ください

※短いほど読みやすく表示されます

※肩書き・文章・記号は表示できません

☐ しない

領収書名目 ☐ 賛助会費 ☐ 広告費 ☐ 協賛金 ☐ 寄付金 ☐ その他()

※通常、「広告費」は経費としてご算入可能です。詳しくはご担当税理士様にご相談ください。

※当会へ「寄付金」の名目でご支援いただく場合、寄付金控除は受けられません。

・この FAX お申込書をご送信の上、下記□座までご支援くださいますようお願いいたします。

☐ みずほ銀行 鷺宮(さぎのみや)支店 店番 172 普通 2069508

☐ ゆうちょ銀行 記号 10000 番号 48491001

☐ 座名義 バリアフリー フィルム パートナーズ

・お振込後 2 週間以内に領収書を郵送いたします。(※お急ぎの場合、お振込後にご一報ください)

・映画のエンドロールへの表示には□数に応じて下記の特典が加わります。

10 □ ~ 当会ホームページの全ページにバナー広告を掲載いたします。

50 □ ~ ご指定の□マークにてエンドロール表示いたします。映画チラシ・ポスター等にも表示いたします。

(※詳しくはお問合せください)

通 信 欄 ※事前に請求書が必要な場合など、この欄にてお申し付けください

お申込先 FAX 番号

03-6869-3361

あたたかいご支援をお願い申し上げます

私には、
翼がある。



Barrierfree
film partners

本当のバリアフリーを、映画で

バリアフリー・フィルム・パートナーズ

映画製作のご案内

後援：日本医師会 / 日本リハビリテーション医学会 / 日本看護協会 / 日本理学療法士協会
日本病院会 / 全日本病院協会 / 日本リハビリテーション病院・施設協会 / 障がい者自立推進機構パラリンアート
企画協力：ハートリンクワーキングプロジェクト / Love Hand Project / ココロのバリアフリー計画





衆議院議員 野田 聖子様

現在、日本で新しく建てられる建物は、ほとんどが障がい者や高齢者の方々にも利用しやすいユニバーサルデザインが採用され、バリアフリー化が進んでおります。

そもそも「バリアフリー」という言葉は、障がい者など身体に不自由のある方々にとって物理的に障害(バリア)になるものを取り除く(フリーにする)という意味がはじまりです。そして現在では、物理的な障壁のみならず資格・免許取得など制度的な障壁や文化・情報の取得する権利の確保、そして差別など意識上の心の壁などこれらすべての障壁をなくすことを指しています。

それでは、日本でこれらのバリア

フリーがどこまで進んでいるかを考えたとき、もっとも理解が進んでいないのが「心のバリアフリー」ではないでしょうか。

この映画はそのような心の壁を内側から取り除くことを目的として制作しております。心のバリアフリーが進めば、障がい者の方々が普通に働き表現できる社会がきっと実現できます。

政治家として、障がいを持つ息子を抱える一人の母親として、この映画を通じ障がい者が輝けるポジティブな世界になることを期待してやみません。

みなさまにもご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

わが国における障がい者施策は進んだとは言え、駅や公共施設などを見ても、欧米諸国に比べれば依然として遅れている状況にあります。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、さらに整備が進んでくと思われますが、その際にはハード面だけではなく、ソフト面、つまり、心の「バリアフリー」を進めていくこと

が不可欠です。そういった意味においても、本事業は大変意義あることであると考えています。

また、本作品はリハビリテーション医療の重要性を伝える内容になると聞いています。早期にリハビリに取り組むことは、われわれが目指す健康寿命の延伸にもつながることであり、映画の完成を楽しみにしております。



日本医師会 会長 横倉 義武様

資生堂 トップヘア&メーキャップアーティスト
資生堂 ヘア&メーキャップスクール
SABFA※校長
原田 忠様

※SABFA (Shiseido Academy of Beauty & Fashion)

あの嬉しそうな笑顔が今でも忘れられません。不慮の事故で車椅子の生活を余儀なくされながらも、すべてを受け入れ、卑屈にならず、悲しさや苦しさの微塵も周りに見せなかった叔父。そんな叔父を献身的に支え続けた、片足に障がいを持った叔母。美容師である母が叔父をカットし、叔母にパーマをかける。2人が綺麗になっていくまでの楽しい会話と笑い声が響いていた、幸せに満ちた心地よいひとときがとても大好きでした。

だれかの幸せと笑顔をつくるお手伝いをする、表面的ではない

内面から湧き出る心の美しさを引き出すことが、美にたずさわる自分に課せられた使命であると信じています。

障がいの有無にかかわらず、自分の人生を生きる覚悟を決めた純粋で崇高な精神こそが心のバリアを取り払い、互いの異なる価値観を理解し肯定し認めあうことが、より豊かで平和な社会の実現を目指す一歩になるという強いメッセージを孕んでいるこの映画が、誰もが自信をもって美しく生きるための「人間讃歌」として人々の心に響き続けることを願ってやみません。

誰もが輝ける世界へ — 私たちが、“映画の力”で変えていきます

バリアフリー・フィルム・パートナーズ 会員一同



心のバリアフリーを実現したい。

一枚の写真がきっかけでした。そこには、義足を身につけた外国の女性が颯爽と歩く姿がありました。その写真は、僕の持っていた障がいを持つ方々に対するイメージを完全に覆すことになりました。今までに見たどのモデルよりも美しく感じたからです。

僕が持っていたような思い込みや偏った意識は、誰にでも少しはあるものではないでしょうか。それが無意識に一人一人の心に見えないバリアを生み、障がいを持つ方々が生きづらい社会にしています。

「心のバリアフリーを実現したい」。

同じ想いを持つ仲間が障がいの有無にかかわらず集まり、2015年に当会が生まれました。

映画には、多くの人の心を動かす力があると信じています。その力で人々の心のバリアを取り除き、誰もが美しく輝くことが出来る世界へと変えていきます。

バリアフリー・フィルム・パートナーズ
代表

石川貴臣

本当のバリアは、私たちの心が作り出している。

障がいのある人々が生活し、働き、表現するうえで、社会には様々な困難が存在します。その多くは、私たちの心に無意識に存在する「障壁=バリア」に原因があると考えます。

バリアフリー・フィルム・パートナーズは、映画が持っている「観る者の心を動かす力」でそのバリアを取り除き、障がいがあるからこそ一層魅力的に輝くことができる真のバリアフリー社会を作っていきます。

① 映画を通して 「心のバリアフリー」を訴える。

若者にも親しみやすいファッションモデルを題材としたストーリーで、無理なく「心のバリアフリーとは」を考え、自然に身につけて貰います。

② 障がいとリハビリテーション・ 社会復帰をポジティブに描く。

リハビリテーション医療の重要性を丁寧に描く本作は、障がいを持った方々の活躍を推進すると共に、超高齢社会の活性化のための一助にもなります。

③ 出演者もバリアフリー。 障がい者と人気俳優が競演。

バリアフリー・オーディションを開催。従来にはなかった、障がいの有無に関わらず受けられるオーディションにより、映画で活躍するチャンスを提供し、障がいのある人が輝ける社会を実践します。

④ 映画による当会の収益を 障がい者支援団体に寄付。

当映画により当会に収益があった場合、全額を障がい者支援団体に寄付します。

また、一部の障がい者支援団体に当映画を自主上映するために無償提供します。(※対象団体は当会が選考します)



※掲載写真はイメージショットです。実際の出演者とは異なります。



映画 ランウェイ (仮題)

すべてを失った。そして、あたたかな光に包まれた——。

トップモデルを目指していたリサは、ある日仕事に向かう途中で事故に遭い、両脚を失ってしまう。

絶望したリサは心を閉ざし、別の道を歩もうとするが、どうしても夢を諦めることはできなかった。

病院で知り合った医師や難病患者達との交流を

きっかけにリハビリを重ねるうち、リサは内面から輝く本当の美しさを身にまとっていく。

そして再びランウェイを歩くことを目指して、立ち上がる。

※ストーリーは一部変更となる場合がございます。



タイトル 『ランウェイ』(仮題)
 ジャンル フィクション・ヒューマンドラマ
 上映時間 約100分(予定)
 完成予定 2017年末
 公開予定
 ・全国の映画館にて劇場公開
 ・全国の主要店にてDVD発売
 ・支援団体等で自主上映会を開催
 ※当会に映画による収益が生じた場合、
 障がい者支援団体に全額を寄付します。

出演者 選考中
 (著名俳優や障がいのある方々をキャスト予定)

主要スタッフ
 ・監督・脚本 緒方 貴臣
 (代表作:『子宮に沈める』監督
 ※オレンジリボン運動推薦映画)
 ・企画プロデューサー 帆根川 廣
 (代表作:『迷宮カフェ』監督
 ※日本医師会後援・骨髄バンク普及映画)

後援 日本医師会
 日本リハビリテーション医学会
 日本看護協会
 日本理学療法士協会
 日本病院会
 全日本病院協会
 日本リハビリテーション病院・施設協会
 障がい者自立推進機構パラリンアートほか

企画協力 ハートリンクワーキングプロジェクト
 Love Hand Project
 ココロのバリアフリー計画

企画 バリアフリー・フィルム・パートナーズ
 株式会社スタジオステパノ

製作 バリアフリー・フィルム・パートナーズ

バリアフリー・フィルム・パートナーズ 概要

設立 2015年6月

会員数 25名

主要役員

代表 緒方 貴臣 東京都/映画監督
 副代表 森 圭一郎 東京都/シンガーソングライター
 副代表 帆根川 廣 群馬県/映画監督
 理事 林 三枝 新潟県/認定NPO法人ハートリンク
 ワーキングプロジェクト副理事長
 理事 小林 真 埼玉県/NPO法人市民シアター・エフ監事

理事 後藤 富和 福岡県/弁護士
 理事 須賀 祐子 群馬県/看護師
 理事 池田 君江 東京都/
 NPO法人ココロのバリアフリー計画理事長
 業務監事 須賀 紳二 群馬県/公務員
 会計監事 中沢 丈一 群馬県/群馬県議会議員

※2017年1月時点の情報で、内容は変更となる場合がございます。



池田 君江

理事。1975年大阪府生まれ。2007年に起きた渋谷温泉施設爆発事故に巻き込まれ、脊髄損傷により車椅子ユーザーになる。ある飲食店の親切な対応に感動し、多少の段差があっても周囲の理解があればバリアフリーを超える快適な場所になる事に気づき「NPO法人ココロのバリアフリー計画」を設立。応援店は全国1100件に上る(2016年末時点)。

2007年に起きた渋谷の温泉施設爆発事故に巻き込まれ、車いす生活になりました。それまで当たり前に行っていたお買い物や食事に「他のお客様の迷惑になる」と言われ行くことが出来なくなり、心身ともに疲弊していたとき、あるトレーナーからの「行けない場所なんてありませんよ。段差、階段があったら自分が担ぎます」の言葉で考えが180度変わりました。周りの誰かのココロがあればバリアフリーを超える素敵な場所になると、「ココロのバリアフリー計画」を設立。バリアの有無に関係なく手助けしてくれるウェルカムなお店・場所を検索できるサイトを作りました。

この映画を通して、物理的なバリアの有無よりも心のバリアフリーが大切だという事を多くの方に知っていただきたいです。映画の中でも紹介されるココロのバリアフリー検索サイトを使って、皆が安心して出掛けられる世の中になるよう願っています。

「音楽に障がいの有無は関係ない」。年間で100本近くのライブをしているとつくづくそう思う。音楽や芸術の本質は頑張ったことや苦しんだことそのものではなく、その先にある真から感動するものを形にし評価されるものだと思う。表現者は、言葉では伝わらないから芸術と云う術で自分の「魂」を表現している。芸術に障がいの有無は関係ない。

障がい者＝真面目、障がい者＝地味。こういった固定観念が今の日本には染みこんでいると感じる。この映画は今ある障がいのイメージを壊してくれると思う。これは純粋に映画としてかっこいい作品なのだ。障がいのイメージを変え、障がいとは健常とはなんなのか？を考えさせる映画になる。僕も俳優として参加する予定だ。

「障がいも健常も関係ないぜ！」と云う魂の表現を、この映画で感じていただきたいと思います。

森 圭一郎

副代表。1978年埼玉県生まれ。シンガーソングライター。16歳の時事故により半身不随に。絶望の中で音楽と出会い、2004年にプロデビュー。「本当のバリアフリーを形に」を広めるLove Hand Projectを立ち上げ日本縦断ツアーを敢行。2011年「ゴールドコンサート」でグランプリ受賞ほか。NHK・Eテレ「ストレッチマンV」にストレッチマン・パープル役で出演中。

素晴らしい映画にするために、皆様のあたたかいご支援をお願いいたします。

帆 根川 廣

副代表。1973年群馬県生まれ。映画監督。前作の骨髄バンク普及映画『迷宮カフェ』(KADOKAWA)で監督・脚本を務め、骨髄提供の啓発にとどまらず、人生に迷った人々の再生の物語を温かな目線で描く。映画を観た人が実際に骨髄ドナー登録するなど、狙い通りの成果をあげる。本作ではその経験を活かし企画プロデューサーを担当。

森山・風歩

1981年広島県生まれ。作家・モデル・ファッションデザイナー。十代で進行性筋ジストロフィーと診断される。自伝の著書「風歩」(講談社)はNHKでドラマ化。モデルとしても写真家の荒木経惟氏らの被写体となるなど、障がいを隠すことも売りにすることもなく、美しいもの、興味のあることを追求して表現し続けている。本作には俳優として出演予定。

緒方 貴臣

代表。1981年福岡県生まれ。映画監督。前作『子宮に沈める』は、大阪2児放置死事件を基にし児童虐待のない社会を目指す「オレンジリボン運動」推薦映画となる。社会問題を独自の視点と洞察力で鋭く切り取った作品を通して世の中への問題提起を続けている。骨髄バンク普及映画『迷宮カフェ』に監督補として参加し作品に貢献。本作では監督に挑む。

林 三枝

理事。1952年新潟県生まれ。小児がん経験者には克服後も後遺症や差別などで就労が困難な人がいることから支援団体「認定NPO法人ハートリンクワーキングプロジェクト」を設立。副理事長を務め、小児がん経験者の働き場所「はーとりんく喫茶」を作る。保険に加入出来ない小児がん経験者が入れる全国初の共済「ハートリンク共済」設立に貢献。

SUPPORT

1口3万円~のご支援で、映画のエンドロールにお名前を掲載いたします

- お申込方法：FAXお申込書、またはホームページ(barrierfree-film.org)よりお申込のあと、下記口座へご支援ください。
- ご指定の名目で領収書を発行いたします(通常、「広告費」等は経費として算入可能です。詳しくはご担当税理士様にご相談ください)。
- お振込先：みずほ銀行 鷺宮支店 普通 2069508 バリアフリー フィルム パートナーズ
- お申込・お問合せ先：FAX 03-6869-3361 TEL 03-6869-3373 E-Mail info@barrierfree-film.org
事務局 〒371-0034 群馬県前橋市昭和町3-31-1 バリアフリー・フィルム・パートナーズ 宛
(本部 〒165-0032 東京都中野区鷺宮3-17-6 要ビル301) ※郵送でのお申込は上記の事務局宛にお願いいたします

本当のバリアフリーを、映画で。

<http://barrierfree-film.org>

発行 **バリアフリー・フィルム・パートナーズ**

発行人◎バリアフリー・フィルム・パートナーズ
代表 緒方 貴臣 2017年1月1日発行

転載禁止

本 部 〒165-0032 東京都中野区鷺宮3-17-6 要ビル301
事務局 〒371-0034 群馬県前橋市昭和町3-31-1 ⇨ 郵送によるお申込はこちらへ

お問合せ
お申込先

T E L 03-6869-3373 F A X 03-6869-3361 E-mail info@barrierfree-film.org